

| 専門分野 | | | |
|--|--|--------------------------------|--|
| 比較文化・比較文学 | | | |
| 研究課題 | | | |
| 日中比較文学研究、アジア経済文化の研究 | | | |
| 教育活動 | | | |
| 担当授業科目(学部) | | | |
| 平成 24 年度 | | | |
| 現代日中貿易概論、映像で知る社会と文化、アジアサービスビジネス、中国情報サービス事情、中国語Ⅲ(研究)、中国語Ⅳ(研究)、資格中国語Ⅳ、中国語ⅠB、ⅡB、演習A、演習B | | | |
| 平成 25 年度 | | | |
| 現代日中貿易概論、映像で知る社会と文化、アジアサービスビジネス、中国情報サービス事情、中国語Ⅲ(研究)、中国語Ⅳ(研究)、資格中国語Ⅳ、中国語ⅠB、ⅡB、専門演習B、卒業研究 | | | |
| 平成 26 年度 | | | |
| 現代日中貿易概論、映像で知る社会と文化、アジアサービスビジネス、中国情報サービス事情、中国語Ⅲ(研究)、中国語Ⅳ(研究)、資格中国語Ⅳ、中国語ⅠB、ⅡB、演習B、卒業研究 | | | |
| 平成 27 年度 | | | |
| 現代日中貿易概論、映像で知る社会と文化、グローバル情報サービスビジネスA、グローバル情報サービスビジネスB、人間と文化C、中国語Ⅲ(研究)、中国語Ⅳ(研究)、資格中国語Ⅳ、中国語ⅡB、専門演習A、専門演習B、卒業研究 | | | |
| 平成 28 年度 | | | |
| 国際貿易論、生活設計論、映像で知る社会と文化、ビジネスコミュニケーション、人間と文化C、中国語Ⅴ・Ⅵ(研究)、資格中国語Ⅱ、中国語ⅡB、中国社会文化研究Ⅱ、卒業研究 | | | |
| 担当授業科目(大学院) | | | |
| | | | |
| 事項 | 年月 | 対象者 | 概要 |
| 教育方法の実践例 | | | |
| | | | |
| 作成した教材・資料集 | | | |
| | | | |
| その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 中国語検定本学会場責任者および中国語検定対策講座担当 | 平成 28 年 11 月 平成 27 年 6 月、11 月 平成 26 年 6 月、11 月 平成 25 年 6 月、11 月 平成 24 年 6 月、11 月 | 本学在学学生、卒業生の中国語検定受験者 | 本学会場に 7 年間 144 名(H22: 18 名、H23: 29 名、H24: 23 名、H25: 22 名、H26: 24 名、H27: 13 名、H28: 15 名)の合格者を出し、大学語学教育および国際交流の促進に役に立てた。 |
| 現地講義「空海と日本仏教」 | 平成 27 年 11 月 | 人間科学部 3 回ゼミ生 | 高野山の紅葉を愛でながら、弘法大師空海のことを学び、写経を体験する。 |
| 現地講義「高野山開山 1200 年と日本密教」 | 平成 26 年 11 月 | 人間科学部 3、4 回ゼミ生 | 高野山の紅葉を愛でながら、日本仏教の歴史を学び、写経を体験する。 |
| 現地講義「大阪の企業家精神を学ぶ」 | 平成 26 年 5 月 | 人間科学部 3 回ゼミ生 | 企業家ミュージアムにて大阪の産業の歴史と起業家の精神を学ぶ。 |
| 現地講義「日本の仏教・中国の仏教」 | 平成 25 年 11 月 | 人間科学部 3、4 回生 | 高野山で、日本仏教と弘法大師空海のことを学び、写経を体験する。 |
| 現地講義「大阪商人と学問」 | 平成 25 年 1 月 | 人間科学部演習 B 履修生 人間科学部演習 A 履修生 | 阪大適塾記念シンポジウムに参加(H25)。史跡の適塾を見学して、緒方洪庵、蘭学や船場町屋の歴史を学ぶ。 |

| | | | |
|--|--------------|------------------|---|
| 現地講義「大阪産業の歴史を学ぶ」 | 平成 24 年 10 月 | 人間科学部 3、4 回ゼミ生 | 企業家ミュージアムにて大阪の産業の歴史と起業家の精神を学ぶ。 |
| 現地講義「企業家百福とインスタントラーメンの歴史—大阪産業・日清食品の事例」 | 平成 24 年 1 月 | 人間科学部 3、4 回ゼミ生 | インスタントラーメンミュージアムで安藤百福の創業精神を学び、マイカップラーメンをつくることを体験する。 |
| 研究活動 | | | |
| 著書・CD・論文・学会発表・演奏会等の名称 | 単共の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 |
| 共著者、共同発表者、共演者の名前、曲名、担当頁、概要など | | | |
| 著書・訳書・CD 等 | | | |
| 庄野英二文学に関する研究資料Ⅲ | 単 | 平成 29 年 3 月 | 帝塚山学院大学、『こだはら』第 39 号、p.(1)-(12) |
| 庄野英二文学に関する研究資料Ⅱ | 単 | 平成 28 年 3 月 | 帝塚山学院大学、『こだはら』第 38 号、p.(2)-(15) |
| 庄野英二文学に関する研究資料Ⅰ | 単 | 平成 27 年 3 月 | 帝塚山学院大学、『こだはら』第 37 号、p.(1)-(8) |
| 庄野英二先生の児童文学を中国語で楽しむⅩⅧ—『星の牧場』日中対訳(最終回) | 単・翻訳 | 平成 26 年 3 月 | 帝塚山学院大学、『こだはら』第 36 号、p.(1)-(26) |
| 庄野英二先生の児童文学を中国語で楽しむⅩⅦ—『星の牧場』日中対訳 | 単・翻訳 | 平成 25 年 3 月 | 帝塚山学院大学、『こだはら』第 35 号、p.(1)-(18) |
| 学術論文 | | | |
| 庄野英二が「抑留者」を書かねばならぬ理由—『木曜島』を『アレン中佐のサイン』の姉妹編として読む— | 単 | 平成 26 年 12 月 | 帝塚山学院大学、『人間科学部研究年報』第 16 号、p.1-18 |
| 加藤周一の『否定形』論法—「二重の否定」と「対偶」の効用— | 単 | 平成 25 年 6 月 | 東アジア比較文化会議、『東アジア比較文化研究』第 12 号、p.69-88 |
| 庄野英二文学の原点—『星の牧場』と『アレン中佐のサイン』に関する考察 | 単 | 平成 23 年 12 月 | 帝塚山学院大学、『人間科学部研究年報』第 13 号、p.1-13 |

| | | | | |
|---------------------------------------|----|-------------------|---|--|
| | | | | する。両作品の背景に共通した著者の戦争体験がある。著者が書きたいのは、「人間肯定」で、時代や国を超えた善たる人間性の謳歌である。 |
| 庄野英二・庄野潤三書簡にみる作家兄弟の素顔 | 単 | 平成 29 年 3 月 | 帝塚山派文学学会『紀要 創刊号』P.331-358 | 今回初公開した庄野潤三文庫にある庄野英二が六つ年下の弟・潤三に送った書簡と、庄野英二文庫にある庄野潤三から兄・英二に送った十二通の書簡には、封書と葉書との二種類ある。書簡の年代は、1966 年 4 月から 1981 年 4 月までのものである。内容については、便宜上「日常生活の報告」「作家同士の交流」「趣味、関心」の三つに分類した。これらの書簡に詳細な注釈をつけた。作家兄弟の書簡を通して、その素顔を見、作家兄弟の本質を迫ろうとした。 |
| 学会発表 | | | | |
| 加藤周一の漢詩 | 単著 | 平成 27 年 7 月 3 日 | 立命館大学加藤周一研究会 7 月例会 | 加藤周一の漢詩で書かれた恋愛詩を中心に考察した。加藤は進んで「漢詩」という文体を私的=詩的表現手法として選んだ。そして「漢詩」という渡来の文体と、「不安」「恋情」など「私的」で深層の情感との関係を触れて今後の課題にしたい。 |
| 現代の「かな文学」としての漢詩—夏目漱石、井伏鱒二などの中国古典詩の受容— | 単著 | 平成 26 年 10 月 25 日 | 第 12 回東アジア比較文化国際シンポジウム 「東アジア文化交流—古代文学の共生」(杭州・工商大学) | 明治から昭和中期までの日本文学の代表的な作家、夏目漱石や井伏鱒二、加藤周一まで、まるで平安時代の女官が「かな」を愛用するかのように、私的な感情表現の「最適な」手段として、漢詩を愛用した。 |
| 加藤周一の日本観・アジア観 | 単著 | 平成 25 年 10 月 19 日 | 国際シンポジウム「文化の越境と他者の表象」(中国・四川外国語大学) | 加藤周一の「戦後」「日中国交正常化」「香港返還」という三大節目の時期における氏の論説および行動を考察した。考察を通して、東アジア漢字文化圏を重視する加藤周一の近代文化史観を知ることができる。 |
| 加藤周一の否定形論法 | 単著 | 平成 23 年 9 月 29 日 | 日本比較文学学会 関西支部 (関西大学梅田キャンパス) | 加藤周一の「戦後」の日本とアジアに関する論著の中国語版を紹介し、「夕陽妄語」の論評を通して、「香港返還」(1997.7)への明確な加藤の態度と思考を、加藤の「否定形」論法に着眼し、考察を行った。 |
| 演奏会・発表会 | | | | |
| | | | | |
| その他の研究発表、演奏 | | | | |
| | | | | |
| その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む) | | | | |
| 現代中国の若者像—ネット世代 「80 後」「90 後」の希望と苦悩 | 単著 | 平成 25 年 3 月 | 帝塚山学院大学、国際理解研究所、『国際理解』39 号、p.53-71 | 国際理解研究所主催の市民講座の講演録である。ネット時代に生きる 80 年代、90 年代に生まれた中国若者の「いまを、食・住・恋愛観・仕事思考・娯楽嗜好などの諸方面から、そのリアルなライフスタイルを紹介しながら、現代中国における社会と文化の変化を考える。 |

| | | | | |
|----------|---|--------------|-------------------------|---|
| 庄野英二先生と私 | 単 | 平成 28 年 10 月 | 『帝塚山学院大学五〇周年記念誌』P.73-82 | 一、庄野英二先生と私の日本留学 二、庄野英二という生き方—その問いかけけるもの 1 日中文学のこと (1)庄野英二先生は訪中で陳伯吹と出会い、そして「猫」の童話を共訳 (2) 庄野英二先生は中国で詩人雁翼と出会い、そして「愛」の訳詩 2 庄野英二文学の「核」となる作品たち (1)庄野英二文学の原点『星の牧場』と『アレン中佐のサイン』 (2)『木曜島』—『アレン中佐のサイン』の姉妹篇として 三、「文学」と「真実」について |
|----------|---|--------------|-------------------------|---|

研究助成金の受給状況

科研費の採択

| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | 研究代表者・分担者の区別 |
|--------|-------------|--------------|
| | 支給額 | 支給年度 |
| | | |

その他の外部資金による活動

| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | 研究代表者・分担者の区別 |
|--------|-------------|--------------|
| | 支給額 | 支給年度 |
| | | |

| その他研究活動上特記すべき事項 | 年月 | 概要 |
|-----------------------------------|-------------------|--|
| 国際シンポジウム「文化の越境と他者の表象」の分会場 研究発表の司会 | 平成 25 年 10 月 19 日 | 国際シンポジウム「文化の越境と他者の表象」の分会場の研究発表の司会役をつとめた(中国・四川外国語大学日本研究所にて) |
| 日本比較文学学会関西支部研究会 研究発表の司会 | 平成 25 年 9 月 21 日 | 日本比較文学学会関西支部研究会で研究発表の司会をつとめた(大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにて) |
| 東アジア比較文化会議日本支部大会 研究発表の司会 | 平成 24 年 6 月 | 東アジア比較文化会議 日本支部大会研究発表の司会役をつとめた(大手前大学にて) |

学内委員等

| 就任期間 | 機関名・委員名・役職名 |
|----------|---|
| 平成 24 年度 | 大学教務部長、大学共通教育委員長、大学評議員、学院改革会議・大学部会委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員、教育開発・支援センター運営委員、入試(第 1 部会、第 2 部会)委員、Voices 委員、FD 推進委員、大学危機管理委員、国際理解・国際交流協議会委員、人間科学部カリキュラム改訂委員 |
| 平成 25 年度 | 大学教務部長、大学共通教育委員、大学評議員、学院改革会議・大学部会委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員、教育開発・支援センター運営委員、入試(第 1 部会、第 2 部会)委員、Voices 委員、FD 推進委員、大学危機管理委員、国際理解・国際交流協議会委員、人間科学部カリキュラム改訂委員 |
| 平成 26 年度 | 学生部委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員、オリエンテーション会議(人間科学部)委員 |
| 平成 27 年度 | 生涯学習センター長、学生部委員、Voices 運営会議委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員、大学 50 周年誌編纂委員会委員、オリエンテーション会議(人間科学部)委員 |
| 平成 28 年度 | 生涯学習センター長、大学評議員、自己点検・評価委員会委員、学生募集委員会委員、入試実施本部委員、合否判定案作成委員会委員、学生部委員、Voices 運営会議委員、オリエンテーション会議(人間科学部)委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員、大学 50 周年誌編纂委員会委員 |
| 平成 29 年度 | 生涯学習センター長、大学評議員、自己点検・評価委員会委員、FD 推進委員会委員、学生募集委員会委員、合否判定案作成委員会委員、国際理解研究所所員、国際交流センター委員 |

社会活動

学会役員

| 就任期間 | 学会役員名 |
|-------------------|--------------------|
| 平成 20 年度～平成 29 年度 | 東アジア比較文化国際会議日本支部理事 |

| | | | | |
|--|--------------------------------|-------------------|---------------------------|---|
| 平成 23 年度～平成 29 年度 | | 日本比較文学学会関西支部理事 | | |
| 公開講座 | | | | |
| 講座名、講演タイトル | 単共の別 | 年月 | 場所 | 概要 |
| 『加藤周一最終講義』出版記念、没五周年のシンポジウム 講演「加藤周一と中国」 | 単 | 平成 25 年 12 月 22 日 | 立命館大学国際平和ミュージアム | 加藤周一を偲ぶシンポジウム(かもがわ出版主催)が行われた。加藤周一著作を翻訳して中国に紹介した研究者のパネリストとして講演を行った。 |
| 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科主催 大阪狭山市民公開講座第 5 回 「ipad で知るアジアの暮らしと文化」 | 単 | 平成 25 年 11 月 6 日 | 帝塚山学院大学人間科学部 | 昔から海はみんなのもので、国を超えた航海の安全を祈る民間信仰がアジアの大切な歴史文化のひとつである。アジア沿海地域の海の女神「媽祖信仰」を紹介しながら、古代漢字のゲームを楽しんで頂いた。 |
| 堺市泉北教養講座 3 回目 講演「今時の中国都市部のライフスタイルと若者像」 | 単 | 平成 24 年 7 月 | 堺市ビック・アイ | 中国文化を長年研究している泉北市民グループのみなさんに、中国の都市部の人々の暮らしと若者の事情について、紹介し交流をおこなった。 |
| 帝塚山学院大学国際理解研究所 平成 28 年度 第 1 回サロン 講演「華僑・和僑から学ぶグローバル・ビジネスの条件―謝国民氏と迫慶一氏の事例を中心に―」 | 単 | 平成 28 年 8 月 3 日 | 帝塚山学院大学狭山キャンパス 国際理解研究所サロン | 世界の市場を相手にしながら動き続ける華僑、近年主に ASEAN で活躍しネットワークを広げつつある和僑、生まれた国や地域から飛び出し、国際ビジネスを展開する人間の持つ強みとは、どんなものか。 中国で国際ビジネスの投資許可第一号を手に入れ、鄧小平をはじめ政府要人と現地の民衆の信頼を得たタイの豪商で華僑のタニン・チャラワノン氏と、北京などで集合住宅を設計し斬新なライフデザインを提案する建築士で和僑の迫慶一郎を事例としてとりあげ、アジアでグローバル・ビジネスを成功させた人間の条件について語る。 |
| 帝塚山学院大学生涯学習センター公開講座 平成 28 年度 前期 第 3 回 講演「『家政婦』『シェア』文化の到来とライフスタイルの変化―上海・シンカポールの事例―」 | 単 | H28 年 7 月 30 日 | 帝塚山学院大学狭山キャンパス 生涯学習センター | 隣国の中国・上海やシンカポールのライフスタイルの事例を紹介しながら、日本においても今後のライフスタイルの変化を予測する。下記のようなことが提案された。 ・従来の考え方にとらわれず、合理的に自分に合う生活の設計をする ・ライフスタイルを見直し、優先順位を決めて、より自分らしい生き方ができるようにするために、他人の手も上手に借りる ・職種に対する偏見をなくし、サービスビジネスとして認識する ・社会のニーズは、ビジネス(仕事)のチャンスである ・仕事に必要なのはマネジメント力。その基本は専門知識(経済基礎知識、斬新なアイデア、専門的スキル)行動力、語学力、コミュニケーション力 |
| 学外機関委員等 | | | | |
| 就任期間 | 機関名・委員名・役職名 | | | |
| 平成 3 年 4 月 | 日本中国学会(現在に至る) | | | |
| 平成 3 年 10 月 | 日本比較文学学会 関西支部理事(平成 25 年～現在に至る) | | | |

| | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|-------------------------|
| 平成 9 年 10 月 | 東アジア比較文化国際会議 日本支部理事(現在に至る) | |
| 平成 21 年 10 月 | 天津師範大学 国際中国文学研究センター特約研究員(現在に至る) | |
| 平成 27 年 4 月 | 立命館大学 加藤周一現代思想研究センター客員研究員(現在に至る) | |
| 平成 27 年 11 月 | 帝塚山学派学会 会員(現在に至る) | |
| その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項 | | |
| | | |
| 海外での活動 | | |
| 海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること | | |
| 期間 | 国名 | 概要 |
| 2009.10～現在に至る | 中国 | 天津師範大学国際中国文学研究センター特約研究員 |